

会 議 名	第三回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
開催年月日	平成 27 年 7 月 9 日 (木)		
開催場所	こども未来創造館 地下 2 階 レクリエーションホール 2		
開催時間	12 時 45 分開会～14 時 00 分閉会		
出欠状況	委員現在数	9 名	
	出席委員数	9 名	
出席者(敬称略) <input checked="" type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席	委員長	■平澤 茂 (文教大学名誉教授)	
	委員	■吉井 譲 (東京大学教授)	
	委員	■山田 心 (認定 NPO 法人 日本グッド・トイ委員会法人運営部長・東京おもちゃ美術館員)	
	委員	■伊東 正示 (東京理科大学非常勤講師 株式会社シアターワークショップ代表取締役)	
	委員	■鈴木 春男 (足立区少年団体連合協議会副会長)	
	委員	■青木 信夫 (前足立区小学校 P T A 連合会会長)	
	委員	■稲塚 由美子 (ミステリー評論家・翻訳家・現在足立区民生児童委員)	
	委員	■染谷 江里 (一般公募)	
	委員	■坂田 卓也 (一般公募)	
事務局	子ども家庭部	部長	伊藤 良久
	子ども家庭部青少年課	課長	寺島 光大
	青少年課ギャラクシティ支援担当	係長	千ヶ崎 嘉彦
	青少年課ギャラクシティ支援担当		上野 兼司
	青少年課ギャラクシティ支援担当		照屋 良太
	青少年課青少年教育担当	係長	村上 長彦
	地域のちから推進部地域文化課	課長	浅見 信昭
	地域文化課文化団体支援係	係長	柿沼 節子
	地域文化課文化団体支援係		脇本 祥子

<p>会議次第</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 前回の議事録の確認 4. 事務局からの資料説明 5. 意見交換、委員会からの意見の検討 6. 今後の流れについて
<p>配布資料</p>	<p>資料1 次第</p> <p>資料2 第2回ギャラクシティ運営評価委員会議事録</p> <p>資料3 平成26年度足立区ギャラクシティ運営評価委員会評価書</p> <p>資料4 評価項目ごとの採点一覧</p> <p>資料5 委員ごとの評価書</p> <p>資料6 採点票委員所見まとめ</p>

	<p>< 1. 開会 ></p>
寺島課長	<p>これより、第三回ギャラクシティ運営評価委員会を始めさせていただきたい。</p>
	<p>< 2. 委員長挨拶 ></p>
平澤委員長	<p>今年度については、今日が最終回になる。ご意見をいただくが、結論が本日出ない場合は、お預かりしたご意見を事務局と調整の上、確定としたい。</p>
伊藤部長	<p>本日の3回目が今年度最後の評価委員会となり、最終調整となる。委員の皆さまにはこれまでの議論を踏まえて評価の方をお願いしたい。</p>
寺島課長	<p>前回の議事録に修正がある場合は、7月17日までに事務局まで返送をいただきたい。続いて資料確認を行わせていただく。</p> <p>(各自資料確認)</p> <p>(傍聴人入場)</p>
平澤委員長	<p>それでは、最終的な評価について、事務局にまとめていただいた。資料3を主としてご説明いただきたい。</p>
千ヶ崎係長	<p>前回5月の第2回評価委員会の議論を元に皆さまから採点していただき、資料3については、総合的にまとめさせていただいた。資料4については、各委員からいただいた評価をそれぞれの項目ごとに評点をまとめたものになっている。資料5については、各委員からいただいた評点を記載している。資料6については、各委員からいただいたそれぞれの項目についてのご意見をまとめさせていただいている。</p>
平澤委員長	<p>昨年がB-の評価であり、課題も多かったが、今回の評価は改善された点が反映された結果となっており、適正なところではないかと思う。評定A-の結果についてご意見をいただくとともに、もう一つ大事なポイントとして、資料3の右欄の委員の意見集約である。文言等について適正なものとなっているか、ご判断をいただきたい。それでは、一つ目の管理運営体制についてご意見があればお願いしたい。</p>
伊東委員	<p>「ただし」の次の、「一部では来場者の立場に立っているとは言い難い対応」について、聞く側からすると、一体何を言われているのかわかりづらいので、より具体的に言ってあげた方がいいのではないか。</p>
稲塚委員	<p>車イス対応や知的障がい者に対する対応について、朝一律に整理券を配り、本人が並ばないといけないことについて、意見を言わせていただいた。具体的には、社会的に弱い立場にあ</p>

	る人のことである。
平澤委員長	注釈のような形で、付記することも可能ではないか。障がい者対応に関して、もう少し努力が必要という形で、付記することで対応としたい。他にご意見がなければ、管理運営体制については、以上のご意見を元に対応することとしたい。では次に、こども体験事業について、文言についてご意見があればお願いしたい。
伊東委員	「こどもの成長への影響等」の影響について、成長の過程に合わせてという意味合いだったように思うが。
稲塚委員	ボランティアのチューター的なところで色々関わっていて、こどもを成長させるというより、主導してやっている状況で、今後自主的に出来ると良いということで意見を書かせていただいた。
平澤委員長	それでは、伊東委員の発言にあった、発達段階に応じて、指導の仕方や支援の仕方を工夫するというところで、後日事務局と調整を行いたい。
坂田委員	前年度の評価では、こども体験事業が一番良かったように思うが、今年度は一番低くなっている。その原因について、区としてはどう捉えているか。
寺島課長	去年は、まるちたいけんドーム、広報について、努力が必要ということで、館としてかなり努力をして改善してきて、その部分で評価をいただいた。しかし、子ども体験事業についてはそれらに比べると、やや課題がまだ残っていると見受けられているのではないかと思っている。
吉井委員	事業の量とともに、質を求めたことについて、区の要求に対して質が上がっていないということである。他の項目については、質以前の問題であり、量が足りないなどのところに問題があった。
平澤委員長	他にご意見がなければ、次にまるちたいけんドームについてご意見をお願いしたい。無いようであれば、次に文化事業について、ご意見があればお願いしたい。
青木委員	文化事業は、志向性のあるものであるため、果たして集客だけが良いことが全てなのかという表現について、それぞれの事業が特徴を持ったものなので、その辺りに主体を置いた方が良いのではないかと思う。
平澤委員長	場合によると、必ずしも集客が伸びないけれども、意味のあるものもあり得るため、表現を工夫して書き込みをする必要がある。
吉井委員	100%努力して集客が伸びないのならば仕方が無いところもあるが、その辺りではまだ課題があるように思うので、区と指定管理者は努力をしていただきたい。

平澤委員長	では最後に、広報事業について、ご意見をいただきたい。
稲塚委員	CSR活動という言葉について、どの方が見てもわかるような表現なのか。
吉井委員	社会貢献であり、日本語の方がわかりやすい表現である。
平澤委員長	この表現については、日本語に変更することにしたい。 それでは、個別の項目については概ねこの記述で、一部ご意見をいただいた点については修正の上、各委員に見ていただき、最終確定としたい。最後に、各委員の皆さまから一言ずつご意見をいただきたいと思う。
染谷委員	利用者の立場として評価させていただいた。友人を連れて来ることも多く、施設を知らなかった友人からは、うらやましがられることもあり、区民として誇れる施設になってきていると感じている。ギャラクシティは公共施設ではあるが、かなりオリジナリティが溢れる施設になっていると思う。また、広報活動については、情報発信が一面的になっているところがあるので、もう少し区民と関わりを持てるようになってほしい。ギャラクシティが区に根ざしていくように、草の根の活動を展開してもらいたい。
坂田委員	他区の方と話していると、ギャラクシティを知っている方が多くいるのを感じ、知名度は上がってきているように感じている。今回の評価にあたり、活動内容を聞かせていただく中で、非常に改善されているのを感じている。また、実際評価してみても上がってきているので、非常に良い方向であると思う。ただ、もう一つこれから目指すところとして、長期的な関係性を区民と作っていくことが必要である。ギャラクシティを通して成長していく関係性をもっと築いていける施設にしてほしい。そのためには、足立区としてギャラクシティをどういう施設にしたいのかというビジョンがあり、ギャラクシティを拠点として、子どもたちの成長に繋げてほしい。
山田委員	今年度、昨年度あった課題がかなり改善されたように思う。ただ気になるのは、体制や仕組みというところが、当初計画されたところからどのように修正していくかというところで、資金面にしても黒字を出せるような仕組みを作っていないと、継続した運営は難しいのではないと思う。初年度は赤字で、2年目もそれ程黒字が出ていないので、大きく利益を出す必要はないが、利益を出せるような仕組みだったり、運営側の努力だったり在今后作っていく必要がある。昨年度、量がたくさん欠けているところから、量は達成出来たところで、次はどういった質を目指すかが重要なのかと思う。足立区民だけでなく、区外の方からもうらやましがられるような施設になってほしいので、文化的な側面でご意見番というような、他の自治体からも頼られる施設になってもらいたい。
稲塚委員	2年目の評価委員会を通じて、評価委員会の意見がきちんと館側に伝わり、運営に反映されているのを感じている。館側とキャッチボールが出来ている印象を受けているので、一つずつ改善されているように感じる。今後もこのような形で評価委員会が継続されていくと良いと感じている。

鈴木委員	<p>思いもよらぬA⁻に、早く到達したという印象である。特に期待していたまるちたいけんドームがC⁻のスタートであり、ここをてこ入れしないとギャラクシティの名前に関わると思っていたが、それがA⁻になり良かった。ただ、こども体験事業が早くAになってほしいところである。一般的な集客施設だと、3年目ぐらいから集客が落ちてくるため、個々の改善点を克服し、落ちることのないようにしてもらいたい。また、館長について、館長が交代して館のコンセプトが変わることのないように、できれば名誉館長のような方を区で作ってもらい、コンセプトが継続していくような仕組みをとってもらいたい。</p>
青木委員	<p>体に障がいやハンディのある方にとっても、もう少し自然に対応出来るような形が、管理運営体制の中で出来るようになると良いと思う。評価委員会は、様々な意見の交換の場となり、充実したものとなっていると思う。特にハンディのある方たちが理想に近づけるような形で楽しんでもらえるようになり、さらに広がりのある施設になってもらいたい。</p>
伊東委員	<p>2年目評価を向かえて、評価することの重さを感じている。足立区民ではなく、ギャラクシティを利用していないため、日常が見えていないところがある。そのため、館長の説明を信じるしかなく、甘く評価を付けてしまったような気がしている。ただ、2年目で昨年と比べて悪くなっているところは無さそうな印象を受けたので、昨年よりポイントは落とせず、そうするとどんどん良くなっていく。だんだん評価が高くなると、区の要求水準も当初より高くなっているような気がする。西新井文化ホールに関しては、足立区にはシアター1010があり、そことのすみ分け必要であると思う。西新井文化ホールは、区民に向けて全ての人に満足してもらえるような事業を展開するのが、合っているのかなと思う。評価にあたっては、事前に今年目標をもう少し明確に示してもらう必要がある。集客力はないが、区にとってやるべき事業であるとか、細かく事前に示してもらうことで、それが達成出来たかどうかを判断していかないと、一年間の計画性が見えてこない。また、評価委員会の運営にあたっては、もう少し事務局の方と議論をさせていただけるような場としてもらいたい。現場を見ていない人からすると、館長の説明を100%受け取るしかないのだから、そうすると現実とは少し違うところを見ているかもしれないというところで、反省点として思った。</p>
吉井委員	<p>今回のA⁻評価については、悪くない評価だと思っている。ただ、A⁻というのは、80点であり、限りなくB⁺に近い数字である。数字的には、少し気を付けた方がいいのではないかなと思う。ギャラクシティの運営を日常的に見ていないので、逆に言うと客観的に評価が出来ていると思う。こども体験事業については、質を問われると対応出来ないのではないかなという印象である。質のところをどうするかは、教育関係の機関に、事業をやる前の段階で参加してもらって、区としても明確に方向性を示していく必要があるのではないかなと思う。足立区の区民調査で、区に誇りを持っている人の割合が増えており、ギャラクシティも多少なりとも貢献しているのではないかなと思う。足立区の良さをどうギャラクシティで実現していき、理解してもらえるようになるのがポイントであると思う。また、文化事業については、行政側にも問題があるのではないかなと思う。こども未来創造館と文化ホールでは区の担当部署が違うため、区の担当者の運営に対する意識が一致しているのか、疑問なところである。なので、同じ課が両方を担当するようなことを考えた方が良いと思う。そういうところを通じて、館の運営が一体となって、さらに足立区らしさを高めるような形になってもらいたい。</p>

平澤委員長

一つ大きな課題としては、区がギャラクシティに対して、どういう理想で進んでいくのかという辺りが、2年間見てくる中で、あいまいな印象を受ける。目標として出しているものはあるが、数値的な目標にしても、なぜそのような数値になるのか、もう一つ見えにくいところがあるように感じている。また、区の求めることと、指定管理者の運営のずれについては、文書としてしか見えてこないため、もう少し生で区の考えている意見を聞けるような、評価委員会の場となるようなことも検討してもらいたい。足立区の方々が、ギャラクシティを誇りに持ってもらえるように、区としても指定管理者としても努力が必要であり、評価委員にあっても責任を持って関わらないといけないと感じている。本日いただいたご意見元に、文書を整えて、後日委員の皆さまにお送りし、合意を得た上で、公表することとしたい。それでは、これにて今年度の評価委員会を終了とさせていただきたい。